

第 95 回新潟内分分泌代謝同好会

日 時 平成 24 年 6 月 30 日 (土)
午後 2 時 30 分～6 時
会 場 ホテル日航新潟 4 階『朱鷺』

者に好発し、早期の診断・治療が重要である。

2 卒業延期を余儀なくされた大学生の 1 例

米岡有一郎・渡辺 直人・安藤 弘和
野澤 孝徳・吉村 淳一・藤井 幸彦

新潟大学脳神経外科

I. 一 般 演 題

1 *Aspergillus fumigatus* による頭蓋底髄膜炎を
発症した 2 型糖尿病の 1 例

金子 正儀・大澤 妙子・鈴木亜希子
川田 亮・山田 絢子・古川 和郎
山田 貴穂・鈴木 裕美・伊藤 崇子
羽入 修・横山 侑輔*・正道 隆介*
高橋 邦行*・高橋 姿*

新潟大学医歯学総合病院第一内科
同 耳鼻咽喉科*

症例は 72 歳，男性。コントロール不良の糖尿病，アルコール性肝硬変，食道静脈瘤があり，びまん性大細胞性悪性リンパ腫で化学療法を施行した既往がある（現在は寛解状態）。入院 1 ヶ月前頃より頭痛を認め，神経内科を受診したが診察上異常を認めなかった。入院 3 日前から嚥下困難，入院前日より構語障害が出現し，精査目的に入院した。MRI，CT では脳幹梗塞等は認めなかったが，上咽頭から頭蓋底にかけて骨破壊を伴う腫瘤影を認め，頭蓋底骨髄炎の診断で抗生剤の治療を開始した。本症例の起原菌は *Aspergillus fumigatus* であり，抗真菌薬で治療を行ったが，第 32 病日にくも膜下出血を発症し，その 3 日後に永眠された。

頭蓋底骨髄炎は細菌感染，真菌感染が原因となり発症する。しばしば脳神経麻痺や髄膜炎，脳炎などの合併症を来とし，時に致命的となりうる。細菌性の場合には悪性外耳道炎からの波及が多く，真菌性の場合には副鼻腔炎等からの炎症の波及が多い。真菌が原因の場合には予後が悪いとの報告もあり，本症例でも厳しい転帰となった。頭蓋底骨髄炎は頻度としては稀ではあるが，糖尿病患

【緒言】内分泌疾患の啓発が必要と感じた症例を報告する。

【症例提示】22 歳，女性。大学 5 年生（4 年生をもう一度履修）。初経 14 歳。その後の月経周期は不整。18 歳の夏（2008 年 8 月）以降，口渇・多飲・多尿を生ず。その後徐々に排尿回数は減少するも不整周期月経顕著。集中力・気力の低下と全身倦怠感が加わる。20 歳（2010 年）から右眼の翳みを自覚。不整周期から無月経へ。22 歳時（2012 年 3 月 31 日），RV = 0.02 (n.c.)，LV = 0.06 (0.7) と視力低下と両耳側半盲を指摘され，頭部 MRI にて鞍上部病変検出。左基底核および脳梁体部に進展。2012 年 4 月 9 日に当科紹介受診。4 月 10 日に経鼻生検。胚腫の診断を得て全脳全脊髄照射で寛解。

【考察】内分泌異常から診断まで 3 年 8 ヶ月を費やした。診断遅滞は患者の生命を脅かし，QOL を著しく損ねるため，内分泌疾患に関する更なる教育・啓発を要する。